

## ◆ 今週のコメント

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(女児, 10歳未満)あります。型別はO157(VT1VT2)です。本年の累積報告数は46例となっています。  
詳細は下記ホームページをご覧ください。  
○京都市感染症情報センターホームページ「腸管出血性大腸菌感染症発生状況」  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2.00(82例)で、3週連続で増加しています。「感染症法」が施行された平成11年4月以降の同時期と比較して、最も多い報告数となっています。例年、冬から夏前まで報告数が多い状態が続きますので、今後の動向にご注意ください。
- RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.17(48例)で、前週 0.90(37例)より増加しており、過去5年平均値を上回っています。「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の同時期と比較して、最も多い報告数となっています。全国でも同様に最も多い定点当たり報告数となっています。
- 咽頭結膜熱の定点当たり報告数は0.68(28例)で、3週連続で増加しています。過去5年平均値(0.07)を大きく上回っており、本年で最も多い報告数となっています。今後の動向にご注意ください。
- インフルエンザの定点当たり報告数は0.19(13例)で、前週 0.07(5例)に比べ倍増しています。  
なお、2枚目の発生状況の概況グラフについては、前号まで掲載していた「2 風しんの推移」を終了し、新たに「2 インフルエンザの推移」を掲載することにしました。

## ◆ 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.98(245例)で、前週 4.61(189例)に比べ、約1.3倍増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 2例(肺結核 2例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 2例  
【1月以降の累積報告数 343例(肺結核 183例, その他結核 83例, 潜在性結核感染者 77例)うち喀痰塗抹陽性 108例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 46例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.19	13
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.98	245
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.00	82
	③ RSウイルス感染症	1.17	48
	④ 水痘	1.02	42
	⑤ 咽頭結膜熱	0.68	28
眼科	流行性角結膜炎	1.10	11

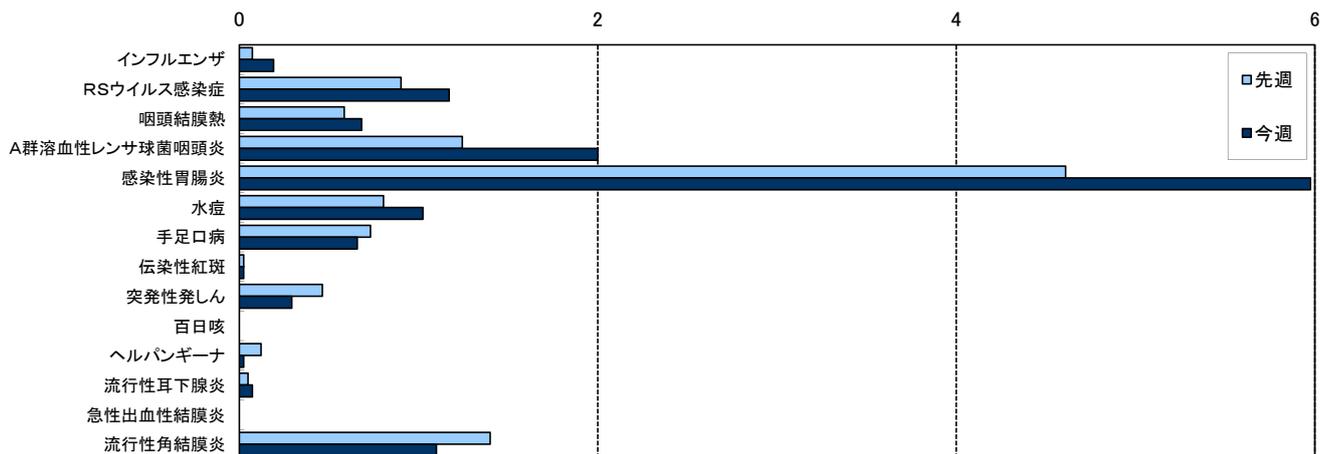
## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <感染性胃腸炎>

(注) 京都市のデータは、平成25年12月5日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

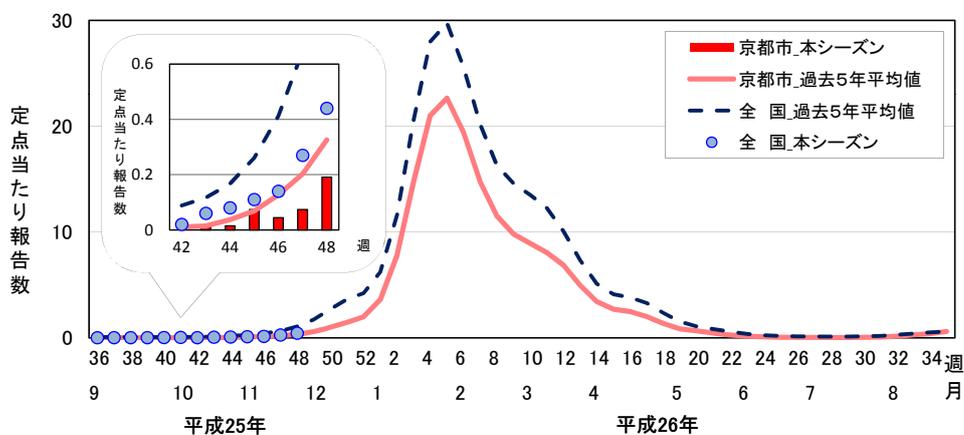
# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第48週)と先週(第47週)の定点当たり報告数の比較



## 2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第44週	1
第45週	5
第46週	3
第47週	5
第48週	13
累積報告数(第36週以降)	32

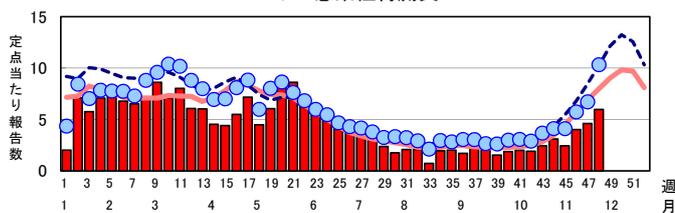


※平成21年/22年シーズンは、例年と流行傾向が大きく異なるため、過去5年平均値の算出には使用していません。

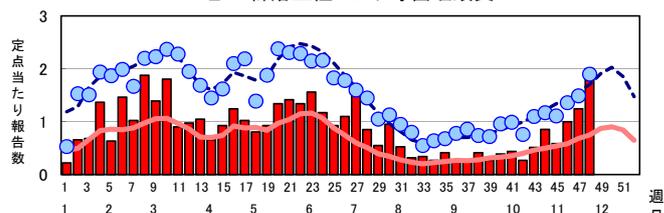
## 3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>

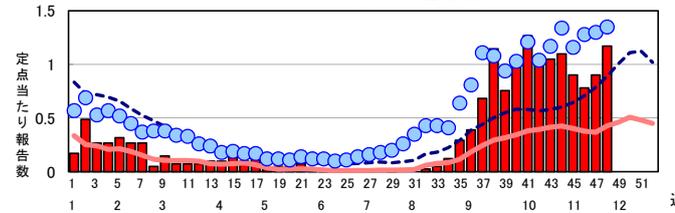
1 感染性胃腸炎



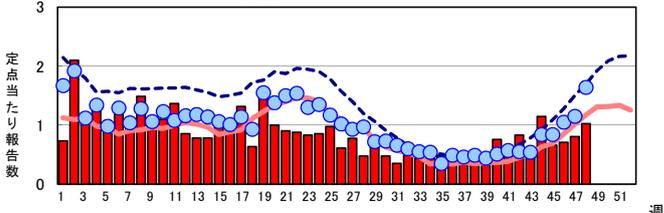
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



3 RSウイルス感染症

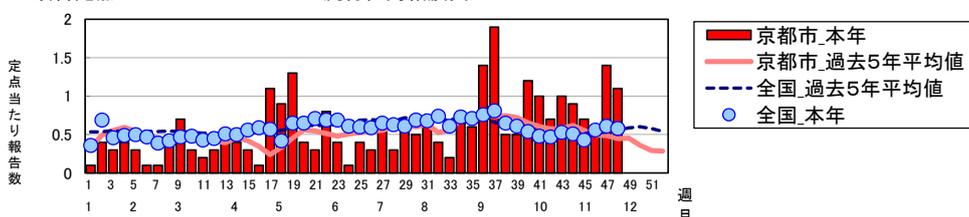


4 水痘



<眼科定点>

流行性角結膜炎

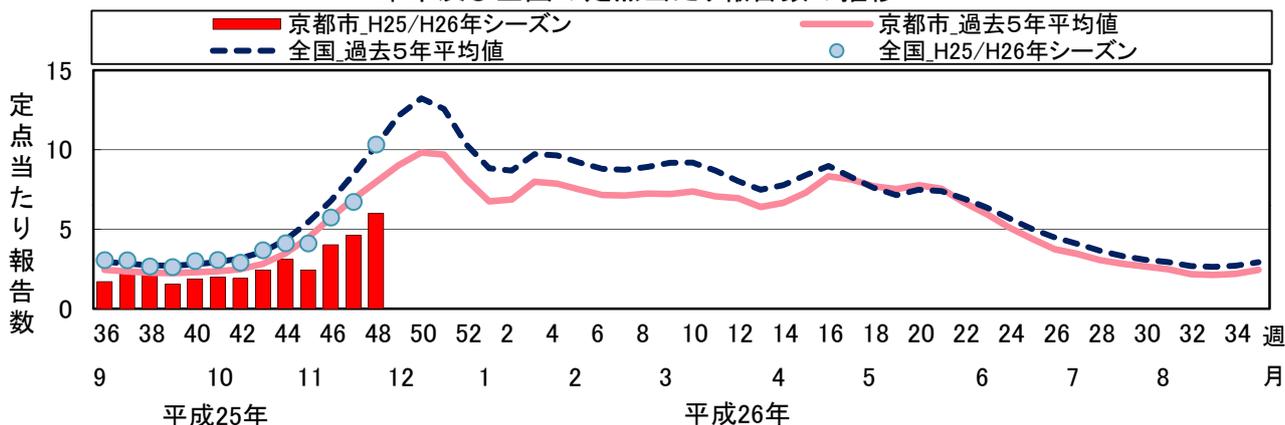


## 第48週(11月25日～12月1日)トピックス: <感染性胃腸炎>

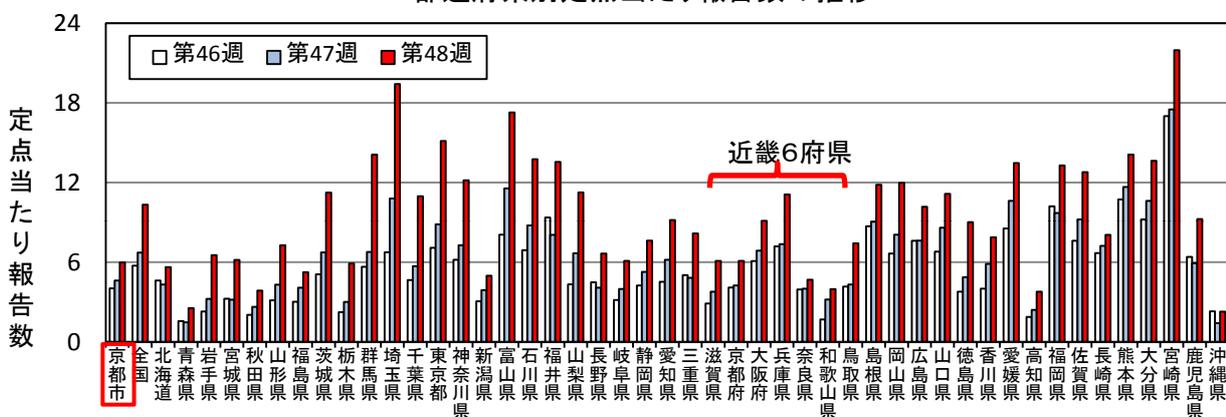
感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.98(245例)で、前週 4.61(189例)に比べ、約1.3倍増加しています。全国の報告数(10.33)も前週(6.72)に比べ、約1.5倍増加しています。例年、ノロウイルス感染を原因とする感染性胃腸炎が冬季に増加し、11月～1月にピークを形成しますので、今後の動向に注意が必要です。

都道府県別における定点当たり報告数の推移をみると、全ての都道府県で前週より増加しています。年齢階級別では、各年齢層から報告があり、2歳が29例(11.8%)で最も多く、次いで1歳、3歳及び4歳 各24例(9.8%)となっています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移



年齢階級別割合の推移

